

## 『群馬県立心臓血管センター第3回登録医大会』のご報告



去る平成22年2月4日(木)午後7時から、群馬県立心臓血管センターにおいて第3回登録医大会を開催いたしました。当日は多くの先生方にお集まりいただき、無事開催の運びとなりました。大会の進行は2部構成で行い、第1部では当センターのトピックスを中心にご紹介し、第2部では外来待合ホールに会場を移し、懇親会を行いました。懇親会では、前橋市医師会会長の石田稔先生に御挨拶をいただき、乾杯の御発声は登録医を代表して、梅枝内科医院院長の梅枝定則先生からいただきました。今回が第3回目となりますが、会場のあちらこちらで院内医師と登録医の先生方との積極的な懇談風景がみられ、回を重ねるごとに充実した懇親会となっております。改めて御出席していただいた先生方には、深く感謝を申し上げます。



### 群馬県立心臓血管センター第3回登録医大会に出席して ～電子カルテによる病診連携～

医療法人 瀬田医院 (前橋市)

院長 瀬田 勝之 先生



2010年2月4日群馬県立心臓血管センター開催の第3回登録医大会に登録医として参加させて頂きありがとうございました。貴センター症例検討会のミニレクチャーや症例発表、時には遠方からわざわざお越し戴いた高名な先生の講演などお聞きし翌日からの診療に役立たせて戴いております。日常診療では心臓血管疾患専門病院・地域医療支援病院としての貴センターの先生方並びに地域医療連携室の方々には大変お世話になり衷心より感謝申し上げます。先生方には紹介した患者さんに素早く、適切に対応して戴きありがとうございました。

紹介状は病診連携のかなめでありその内容は患者の診断、治療、予後に影響します。電子カルテで紹介状を記載して出来るだけ詳細な多くの情報を提供するように努力しています。手書きの紹介状から電子カルテの紹介状に至るまでの当院の電子システム構築の歴史をご紹介致します。

電子カルテ導入前の紙カルテに私が書いた字はくせ字で独語、英語が混ざりその上略語や符丁が混在し読みづらいものでした。カルテは単なるメモではなく保険者や患者に診療内容を説明し伝える大事な公文書です。こんな大事な文書がそれを書いた本人以外は判読困難では診療内容の公開・開示には堪えられません。ワープロでカルテが書ければくせ字は解消します。ただしこれの実現には電子カルテ導入まで待たなければなりません。

開業当初、レセプトはカルテと同様手書きでレセプト提出前の月初めはレセプト作成で忙しく診療に支障を来しました。1980年(昭55)カナ文字印刷のレセコンを購入しレセプト作成時間を大幅に短縮出来ました。機械語ソフトのこのレセコンの入力はスピーディでした。1985年(昭60)導入の2代目の漢字印刷のレセコンはBasicのソフトで入力が遅くイライラしました。1990年(平2)導入の3代目の多端末レセコンは入力も速く診察しながら診療内容を参照できた優れたものでした。この3代目レセコンのサポート終了の頃、電子カルテの存在を知りました。1999年(平11)厚生省通達により電子カルテが診療録として認められました。(資料\*1)

電子カルテはデータの標準化・共通化などの利点が多数あります。また念願のくせ字が解消出来ます。電子カルテをネットで検索しました。ネット上にアップされていた各種各様の電子カルテの中で大阪の内科医が開発した電子カルテ、「電子カルテ・レセコンシステム Dynamics (\*2)」に興味を引かれその将来性を確信して2000年(平12)に4代目の電子カルテ・レセコンとして導入しました。続いて2001年(平13)に電子カルテと連動する広島の内科学者が開発した電子ファイリングソフト RS\_Base (\*3)を導入しました。血液、心電図、画像等の診療データを登録出来ます。各種データの記録、保存、検索、抽出及び図表やグラフ作成等の応用が容易に出来ます。現在、これらシステムで紹介状を作成し必要な情報を添付しています。又診療データをCD等に入力し個人カルテとして転医の時等に本人に渡せます。電子カルテから携帯電話に処方などの診療データを入力でき他医の診察を受ける時等参照できます。(Merody Candy \*9) 2005年(平17)6月音声入力ソフトを導入しました(\*8)。私が話した症状、所見等の言葉が文字としてモニターに拡大表示され患者さんもそれを見て診療内容が確認出来ます。手書きやキーボード入力よりは患者さんの顔を見ながらカルテへ入力出来ます。「先生は私の顔を見ていない」と言われぬようにして患者さんとの信頼関係の醸成に努めています。2006年(平18)4月10日、レセプトオンライン化が認められました>(\*4)

2007年(平19)からレセプトオンライン請求を開始しました。当医院名が官報に掲載されました(\*5)。

2008年(平20)6月24日(火)前橋市医師会内科医会講演会で「レセプトオンライン化～自験例をもとに～」という演題で講演させて頂きました(\*6)。

電子カルテで作成した紹介状はより正確で詳細な情報を提供出来、病診連携に有用と考え当院での紹介状作成システムの経緯を紹介しました。私は将来「電子カルテによる病診連携」が発展し、紹介した患者さんの経過をネットで閲覧できるのではと予想しています。またそのようになるべきと考えています。

当院の電子カルテ運用にはWindows及びメールの基本的知識があれば充分です。SkillよりWillです。興味のある方はご遠慮なく見学に来て下さい。当院の診察室、受付システムをHPにアップしてありますのでご覧下さい>(\*7) ※ 資料 以下すべてネット検索できます

\*1 1999年に厚生省は診療録の電子媒体による保存を認める通達を発表し、その際、電子カルテのガイドラインとして知られる以下の3つの条件を満たすよう求めた。

真正性 書換、消去・混同、改ざんを防止する。作成者の責任の所在を明確にすること。

見読性 必要に応じ肉眼で見読可能な状態にできること。直ちに書面に表示できること。

保存性 法令に定める保存期間内、復元可能な状態で保存すること。

\*2 電子カルテ・レセコンシステム Dynamics

著者：吉原正彦先生 <http://www7a.biglobe.ne.jp/~dynamics/>

サポート 日立ソフテックス <http://www.hitachi-softec.jp/dyna/>

\*3 RS\_Base : 医療用の画像ファイリング・診療支援ソフト

著者 山下郡司先生 <http://rsbase.net/>

サポート 株式会社Medical-In 渡辺敬治(kij\_w@nifty.com)

\*4 厚生労働省令第111号公布

「療養の給付、老人医療及び公費負担医療に関する費用の請求に関する省令の一部を改正する省令の施行について」診療報酬の請求にオンラインによる方法が追加され、順次、オンラインによる方法に限定する厚労省省令が公布施行されました。2010年(平成22)年4月1日からは原則レセプトの請求はオンラインに限定されることになりました。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/shakaihoshou/iryouseido01/pdf/recept01a.pdf>

\*5 厚生労働省告示第二百十号 10010

[http://www.hospital.or.jp/pdf/14\\_20070605\\_01.pdf](http://www.hospital.or.jp/pdf/14_20070605_01.pdf)

\*6 レセプトオンライン化～自験例をもとに～

[http://med.wind.ne.jp/setaclin/index/resept\\_online\\_slide\\_last.ppt](http://med.wind.ne.jp/setaclin/index/resept_online_slide_last.ppt)

\*7 <http://med.wind.ne.jp/setaclin/office/imagell9.gif>

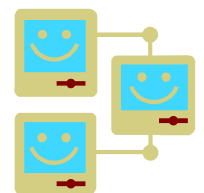
瀬田医院 HP <http://med.wind.ne.jp/setaclin/>

\*8 株式会社アセンディア医療向け音声認識ソフトウェア AmiVoiceEX

[http://www.ascendia.jp/product/product\\_04/amivoice/dousaprice.html](http://www.ascendia.jp/product/product_04/amivoice/dousaprice.html)

\*9 Merody Candy

<http://www.superdyn.jp/candymerody/index.php>



## 新入職医師のご紹介

平成22年4月1日付けで当院に下記5名の医師が入職しました。既に連携関連でお世話になっていることと存じますが、改めてご紹介させていただきます。

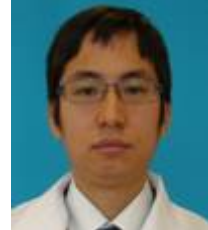


たけち るみ  
武智 瑠美

職名: 医師

診療科: 整形外科

卒業年: 平成17年



なかむら けいじろう  
中村 啓二郎

職名: シニアレジデント

診療科: 循環器内科

卒業年: 平成11年



にしうち すぐる  
西内 英

職名: シニアレジデント

診療科: 循環器内科

卒業年: 平成17年



しばた よしまさ  
柴田 佳優

職名: レジデント

診療科: 循環器内科

卒業年: 平成16年



ながさか たかし  
長坂 崇司

職名: レジデント

診療科: 循環器内科

卒業年: 平成20年

どうぞ よろしく  
お願いいたします。

## 平成22年度群馬県立心臓血管センター症例検討会のご案内

※日本医師会生涯教育【1.5単位】認定の検討会です。

日時	ミニレクチャー	症例検討	会場
5月11日	循環器内科(虚血)	循環器内科 2例 心臓血管外科 1例	総合リハビリ棟講堂
7月20日	心臓血管外科	循環器内科 2例 外科 1例	総合リハビリ棟講堂
9月22日	学術講演会		総合リハビリ棟講堂
11月16日	循環器内科(不整脈)	循環器内科 2例 心臓血管外科 1例	総合リハビリ棟講堂
1月18日	循環器内科(心臓リハビリテーション)	循環器内科 2例 整形外科 1例	総合リハビリ棟講堂
3月15日	学術講演会		総合リハビリ棟講堂

■ 会費: 無料です ■ お申込み: 地域医療連携室へお願いいたします。



地域の医療機関とともに県民の命を守る  
群馬県立心臓血管センター

## 地域医療連携室たより

第16号 平成22年4月 発行

～当センターは“地域医療支援病院”です～



### 病院の理念

～患者本位の医療(温かくて風格のある病院)～

患者の皆様に温かい態度で接し、患者様一人一人の権利と安全を確保し、最良の医療を提供する病院を目指します。

### 目次

- 「群馬県立心臓血管センター第3回登録医大会」のご報告
- 群馬県立心臓血管センター第3回登録医大会に出席して  
～電子カルテによる病診連携～  
医療法人 瀬田医院(前橋市) 院長 瀬田 勝之 先生
- 新入職医師のご紹介
- 平成22年度群馬県立心臓血管センター症例検討会のご案内

平成22年4月現在の外来担当医師を別紙外来担当医一覧表にてご案内いたします。また平成22年4月の人事異動により、外来担当医師に変更がございますので、ご了承のほどお願い申し上げます。

お問い合わせ先

群馬県立心臓血管センター

担当 地域医療連携室

〒371-0004 群馬県前橋市亀泉町甲3-12

電話 027-269-7455 (内線2040・2041)

FAX 027-269-7286

ホームページ <http://www.cvc.pref.gunma.jp>